

主な登場人物

◎ジョブズの家族・親族・友人関係

ポール・ラインホルド・ジョブズ ウィスコンシン州生まれ。沿岸警備隊で水兵をしたあと、クララと結婚し、1955年にスティーブを養子に迎える。

クララ・ハゴピアン・ジョブズ アルメニア移民の娘で、1946年にポール・ジョブズと結婚。1955年に生まれたばかりのスティーブ・ジョブズを養子に迎える。

パティ・ジョブズ ポール・ジョブズとクララ・ジョブズがスティーブの2年後に養子に迎えた女の子。

アブドゥルファター・ジョン・ジャンダーリ ウィスコンシン大学大学院のシリア人留学生で、ジョブズとモナ・シンプソンの生みの父親。のちに、ネバダ州リノにほど近いブームタウンホテル&カジノで飲食物のマネージャーとなる。

ジョアン・シーブル・ジャンダーリ・シンプソン スティーブ・ジョブズの生みの母親。ジョブズは生まれた直後に養子に出したが、二人目の子ども、モナ・シンプソンは自ら育てた。

モナ・シンプソン ジョブズの実の妹。二人は1986年にお互いが兄妹であることを知り、親しくなった。モナは小説家で、母親のジョアンをモデルとした小説(『ここではないどこかへ』)、ジョブズとその娘、リサをモデルとした小説(『凡夫 (A Regular Guy)』)、そして、父親のアブドゥルファター・ジャンダーリをモデルとした小説(『父を探して (The Lost Father)』)を上梓している。

クリスアン・ブレナン ホームステッド・ハイスクール時代のジョブズのガールフレンド。ジョブズの娘、リサの母親である。

リサ・ブレナン=ジョブズ 1978年、ジョブズとクリスアン・ブレナンの間に生まれた娘。小さいころはジョブズに拒絶されていた。

ローリーン・パウエル 頭がよくてユーモアにあふれた女性。ペンシルバニア州立大学卒業後、ゴールドマン・サックスに就職。そのうちスタンフォード大学に入学し、1991年にジョブズと結婚。

リード・ジョブズ スティーブ・ジョブズとローリーン・パウエルの一人目(一番上)の子ども(長男)。母親から思いやりの心を受け継いだ父親似のハンサム。

エリン・ジョブズ スティーブ・ジョブズとローリーン・パウエルの二人目(真ん中)の子ども(長女)。まじめで静かな女の子である。

イブ・ジョブズ スティーブ・ジョブズとローリーン・パウエルの三人目(一番下)の子ども(次女)。活発でエネルギーにあふれた女の子である。

◎仕事関係、その他

アーサー・ロック テクノロジー業界で伝説的ともいえる投資家。草創期のアップルで取締役を務めた。ジョブズにとっては父親的存在だった。

アバディス（アビー）・テパニアン ネクストでジョブズやルビンシュタインとともに仕事をしたあと、1997年にアップルのチーフ・ソフトウェア・エンジニアになる。

アル・アルコーン ポンを設計したアタリ社チーフエンジニア。ジョブズをアタリ社に採用した。

アルビー・レイ・スミス ピクサーの共同創設者。ジョブズと衝突する。

アンディ・ハーツフェルド 陽気で気さくなソフトウェアエンジニア。初代マックチーム時代におけるジョブズの仲間である。

アンドレア（アンディ）・カニンガム レジス・マッケンナの広報担当者。マッキントッシュが登場したころ、ジョブズとの窓口を務めた。

エディ・キュー アップルでインターネットサービスを統括する人物。コンテンツ企業との交渉ではジョブズの右腕として手腕を發揮した。

エドウィン・キャットムル ピクサーの共同創設者。のちにディズニー役員となる。

エリザベス・ホームズ リードでダン・コトケのガールフレンドとなり、草創期のアップルでも働いた。

ギル・アメリオ 1996年にアップルのCEOになったあと、ネクスト社の買収を決定し、ジョブズを呼びもどした人物。

ジェイムズ・ヴィンセント アップルの広告代理店でリー・クロウやダンカン・ミルナーとともに仕事をする音楽が大好きな英国人。

ジェフリー・カツツエンバーグ ディズニースタジオのトップだったがアイズナーと衝突して1994年に辞任。ドリームワークス SKG の共同創設者。

ジャン＝ルイ・ガセー アップル・フランスのマネージャーから、1985年にジョブズが追放された際、マッキントッシュ部門のトップとなった。

ジョアンナ・ホフマン 初代マックチームのメンバーで、ジョブズに立ち向かう気概を持った女性。

ジョナサン（ジョニー）・アイブ アップルのチーフデザイナー。パートナーとして、また、よき相談相手としてジョブズを支えた。

ジョナサン・ルビンシュタイン（ルビー） ネクストにおけるジョブズの部下。1997年にアップルのチーフ・ハードウェア・エンジニアになる。

ジョン・スカリー アップルのCEO。ペプシの役員だったが、1983年にジョブズがリクルートした。のちにジョブズと衝突し、1985年にジョブズを追放する。

ジョン・ラセター ピクサーの共同創設者で、クリエイティブな面を統括する。

スコット・フォーストール アップルのモバイル機器用ソフトウェアを統括する人物。

ステファン・ウォズニアック ホームステッド・ハイスクール伝説のエレクトロニクス・ギーク。ウォズが作ったすばらしい回路基板をジョブズがパッケージ化して販売したのがアップルの始まりである。

ダニエル・ルイン 初期のアップルからネクストまで、マーケティングの役員としてジョブズを支えた人物。

ダン・コトケ リード時代、ジョブズが一番の親友だった人物。インドへの巡礼にも同行した

し、草創期のアップルでも働いた。

知野弘文 曹洞宗の僧侶。カリフォルニア州で禅を教えており、ジョブズが師とあおいだ人物。

ティム・クック 穏やかで堅実なアップルの最高執行責任者。1998年にジョブズがリクルートした。

デボラ（デビ）・コールマン 初期マックチームのマネージャー。活発な女性で、のちにアップル製造部門のトップを務める。

トニー・ファデル 反体制的なエンジニア。2001年にアップルへ移籍し、iPodの開発を統括した。

ノーラン・ブッシュネル アタリ社の創業者。ジョブズにとってはアントレプレナーとしてのロールモデルである。

ビュレル・スミス 初代マックチームで活躍した丸顔の天才的プログラマーだが、1990年代には統合失調症に苦しむ。

ビル・アトキンソン アップル草創期の社員。マッキントッシュのグラフィックスを開発した。

ビル・キャンベル ジョブズが追放される前のアップルでマーケティングを統括した人物。ジョブズのアップル復帰後は取締役として、また、よき相談相手としてジョブズを支えた。

ビル・ゲイツ ジョブズと並んでコンピューター業界を代表する神童。ジョブズと同じ1955年生まれである。

ポール・オッターリーニ インテルのCEO。マッキントッシュをインテルチップへと切り替えた際の立役者のひとりだが、iPhoneのチップをインテル製にすることはできなかった。

マイク・スコット アップルの社長としてジョブズをおさえてもらおうと、1977年にマークラがリクルートした人物。

マイク・マークラ アップルに多額の投資をした最初の投資家で会長に就任。ジョブズにとっては父親的存在でもあった。

マイク・マレー 草創期のアップルでマッキントッシュのマーケティング部長を務めた。

マイケル・アイズナー とてもアグレッシブなディズニーのCEO。ピクサーとの契約をまとめた立役者でもあるが、のちにジョブズと衝突する。

ラリー・エリソン オラクルのCEO。ジョブズの友人でもある。

リー・クロウ 広告界のいたずら好きな魔法使い。アップルの有名な広告、『1984年』を制作し、その後も30年にわたってジョブズを支えた。

レジス・マッケンナ パブリシティのカリスマ的存在。アップル草創期からずっとジョブズを導いた。

ロッド・ホルト アップルIIを開発するため1976年にジョブズが採用した電子工学エンジニア。チェーンスマーカーのマルクス主義者である。

ロバート（ボブ）・アイガー ディズニーのCEO。2005年にアイズナーの後任として就任。

ロバート・フリードランド リード大学時代にジョブズが知りあった友人。ジョブズが通ったリンゴ農園コミュニオンを運営していた。東洋系思想に傾倒しており、ジョブズに対してもさまざまな影響を与えた。のちに鉱山会社の経営者となる。

ロン・ウェイン アタリ社でジョブズと出会い、ジョブズとウォズニアックとともに三人でアップルを立ちあげるが、持ち分を手放してしまう。

ロン・ジョンソン アップルストアの担当として、2000年にジョブズにリクルートされた。